

特別講演

日本高齢者生活協同組合連合会発足にあたっての記念講演

2001年11月3日 東京

エスター・テス・カンジャ（全米退職者協会：AARP 会長）

翻訳 玄幡真美



ご来賓の皆さん、紳士、淑女の皆さん、こんにちは。

わたくしにとって日本高齢者生活協同組合連合会発足集会に出席できることは、名誉なことです。私が訪問したいと願っている国に招待していただいて大変感謝いたしております。AARP 会長として、今回の訪問に AARP 次期会長であるジェームス・パーケルが私と同行することができ特別にうれしく思っています。

日本高齢者生活協同組合連合会発足、6 年間に 29 の高齢者生活協同組合の設立という事実に、私は心からご祝辞を申し上げます。それと共に、高齢者生活協同組合が全都道府県に設立できるようお祈りいたします。AARP は、同じように 50 の全ての州に AARP の事務所を開設するように働きかけてきました。それは、あなた方同様な理由で、地域の人々が、参加しやすいようなサービスや機会を提供するためです。

今日、アメリカや日本だけでなく世界中がエイジング・レボリューションの真っ只中にあります。もし、私たちがそれを理解し、そ

の存在に対して立ち向かわなければ、その結果は私たちの社会に多大な影響を与えることになるでしょう。

加齢と高齢化への否定的な神話は、21 世紀に私たちが取り組むべき課題である高齢化に挑戦する上で、重要な障害となっています。人生の年輪を重ねることは、人間にとって最も祝うべく偉業であり、祝福されるべきことなのであって、神話の山の麓に埋葬すべきことではありません。

アメリカのメディアや現在文化の多くの領域で、高齢者がどのように描写されているかということから、いまでも否定的な神話が影響しつづけていることがわかります。高齢者のニーズに答えようとする指導者や公務員の態度や行動にもまた神話が影響を与え続けています。

日本高齢協と AARP の両方が、機会と責任という同じような主要領域で共有し合うと固く信じています。それは、数多くの高齢者をしばっている神話を打ち破り、多くの高齢者が行動的にエンジョイし、自己実現し安定した高齢期をすごせるよう支援することです。

特に害となっているのは、私たちが老いた時、社会に貢献する一員としての責任が終わ

り、引退しなければならない、という神話です。それは、言い換えれば、人生の論理的帰結として、青年期は教育に専心し、中年は仕事に励み、高齢期は無為に時を過ごすというように信じなければならない、ということです。

そうした伝統的な人生観は、私の国では、なくなっています。すべての年代の人々が、新しい技術を身に付け、能力を開発し、新しい専門の訓練をし、またより多くを知るためにいま学校に行っています。人々はリタイアすることを考えないで、80から90歳まで働きつづけています。

高齢者が非生産的であり、かつ新しい技術を学ぶことができないか、技術について積極的でない、という第2の神話があります。研究が進むにつれ、強調しなければならない別な事実が示されています。

アメリカでは非常に大きな世代 第2次世界大戦後に生まれ50歳をターンしはじめた7,600万のベビーブーマーたちの世代があります。彼らの多くは、リタイアについて、伝統的な考えをもっていません。多くは働き続けようと思っています。しかし、彼らは古い専門を踏襲するのではなく、新しいキャリアを開発し、パートタイムやビジネスを起こしたいと思っています。

アメリカでは、こうした夢や希望を実現することがより容易といえます。なぜなら、私たちにはリタイアの決められた年齢がありませんし、年齢差別について反対する法律をもっているからです。

また他に、有償の仕事のみ意味があるという神話があります。日本の驚くべき戦後の成長と経済的成功は、仕事への倫理観によって創られました。今日の日本を築いた勤労者たちはいま、退職者です。彼らは、有給か無給かの両方においてコミュニティに貢献し、彼らの技術を使い、役立てる機会を必要としています。こうした機会なくして、彼らは依存と衰退に陥ってしまうでしょう。機会があれば、彼らは再びコミュニティのかくされた財産となるでしょう。

私は、フルタイムの仕事から退職した後、コンサルタントとして働き続けました。数年後、スタンドグラス窓をデザインし創作する小さなビジネスを始めました。その後、AARPに加入し、無給のフルタイムボランティアとなり、エキサイティングなキャリアを開始し、これを続け、今日会長となっています。

ベビーブーマーの世代は、私のようなリタイアメントを追求していると信じています。しかし、それを可能とするために、神話を破壊し、有給または無給の参加できる機会を創り、道を切り開いていくAARPや日本高齢協のような組織が必要なのです。

古い神話に固執することは、社会にダメージを与えます。今日の世界で、ひとつの社会の市民や経済、社会的な幸福に対する大きな責任は、高齢者の肩にかかっています。ですから、私たちのような団体は、社会変革を行う仲介者でなければならないのです。

私たちは、人々が高齢期において、以前と異なる考えをもつよう援助します。人々は高

年齢においても成長し、学びつづけることを理解しなければなりません。私たちは高齢期において、知恵・知識・技術・思いやりや創造性を失いはしないのです。実際、自分自身を再発見し、抱いてきた希望や夢を実現するチャンスがある、それが高齢期なのです。

ボランティア活動が、実り多い退職への解答であるためには、リーダーシップと組織の両方が必要となります。コミュニティ内のニーズを確認しなければなりません。日本では新しい介護保険制度がまさに創設されたところで、丁度、皆さんは、有償と無償の両方の機会を認識し確認する過程の最中にいると思います。一旦それができると、ボランティアの募集、訓練、支援をし、そして評価しなければなりません。

AARPにはボランティアの人々を登録し、訓練し、適正に配置する「ボランティアセンター」があります。また、ボランティアの価値を認め、それを手助けするような強力な理解プログラムも持っています。もし、このことについてもっとお知りになりたければ、私は喜んで皆さんに提供いたします。

ご承知のとおり、AARPは世界最大の高齢者組織となりました。会員が今年で3,500万人になるでしょう。ここで、50歳以上人口のほぼ半分がAARPの会員となるまでに至った手引きとなる教訓を皆さん方と共有したいと思います。

・第一に、「法的に裏づけられていない領域を見つけ、それを拡充していくことです」。例えばAARPは退職した教師に健康保険を支給する組織として始まりました。しかし、当

時、アメリカにはどんな形態の公的健康保険もなかったのです。

数年の内に、他の退職者たちが健康保険を要求するようになり、全米退職者協会という組織が結成されました。それは、1958年のことです。

私は、日本の公的介護計画において、皆さん方が法的に裏づけられていない領域を模索してきたことをよく知っています。そうした法のすき間を、有給であれ、無給であれ参加できる機会をつくることは、国家にとって大きなサービスを提供することであり、それが日本高齢協連（NFEPCC）の成長と成功を準備する道のりでもあります。

・第二に、「専門的技術の基礎領域を発展させることです」。私たちはAARPにおいて専門的技術の4つの基礎領域を発展させてきました。そしてそれらを私たちが取り上げる全ての問題に応用しようと試みています。それらとは、出版を含む情報と教育、権利擁護、コミュニティサービス、そして会員の利益です。4つというのはべつに魔法の数字を意味するわけではありません。たった一つの専門的技術の基礎分野でも発展すれば、非常にうまくいっているというべきです。

・第三の教訓は「皆さん方の目的が成就することを支援するような政府や他の法人と提携する」ことです。AARPには50歳以上の低所得者に政府がスポンサーになっている雇用プログラムがあります。それはフルタイムで働けるように補助金でもって彼らに訓練の場を提供しているのです。米国連邦捜査局や消費者保護プログラムを推進する他の公的機関と同様、「メディケア」(65歳以上にたいする

医療保険制度)や「年金制度」のような公的プログラムについて私たちは政府と共に情報を提供してきました。

こうした政府提携プログラムとAARP自身が提唱する内容の両方において、私たちが促進してきたことは、政党や候補者の支持、支援をしないという事実です。私たちは政治目的でお金を寄付いたしません。それにもかかわらず、過去4年の内の3年間、私たちはワシントンで最も強力な院外団体として知られてきました。私たちの調査は好評で信頼されています。そして連邦議会や地元の州議会の議員たちも、会員がAARPを信頼して投票していることをよく知っています。

AARPはまた、ホテル、航空会社、自動車会社、旅行代理店そして会員に対して値引きをしてくれる多くの他の法人とも提携しています。私たちは保険会社や保健医療機関、また他の企業と会員に必要なサービスを提供するための契約を結んでいます。

・第四の教訓はおそらく第一又は第二の教訓としてあるべきなのですが、「ビジョン(未来像)や使命を発展させる」ということです。あなた方のビジョンや使命が実現するような戦略上の優先課題を発展させて下さい。AARPのビジョンは「社会や会員のため高齢化の経験を具体化し豊富にすることで、AARPはあらゆるコミュニティのダイナミックな存在として抜きん出ることができるだろう」というものです。

お話を終える前に、私たちは大きな関心を持って皆さん方がビジョンに向かって働かれるよう見守っています。私は来年4月マド

リードで開かれる第2回世界高齢者会議に参加します。そこで多くの方とお会い出来ることを心待ちにしております。おそらくその時には、皆さん方の取り組みが前進し、あらゆる情報を私たちと共有することが出来るでしょう。それこそが重要なことだ、と私は確信いたしております。

重ねて、本日ここにお招きいただく機会を得られましたことを皆さんに厚くお礼申し上げます。

ありがとうございます。